

報告事項1（周知・報告）

併設型中高一貫校として府立富田林高等学校に併設される中学校の
教育課程や教育内容等の検討状況について

標記について、別紙のとおり報告する。

平成 27 年 11 月 27 日

併設型中高一貫校として府立富田林高等学校に併設される中学校の 教育課程や教育内容等の検討状況について

1. 基本的枠組み

(1) 校名

大阪府立富田林中学校（以下「富田林中学校」という。）

(2) 設置場所

現在の大阪府立富田林高等学校（以下「富田林高校」という。）校地内に設置（大阪府富田林市谷川町4-30）

(3) 設置・運営形態

① 併設型中高一貫校

学校教育法第71条に規定する「同一の設置者が設置する中学校及び高校」（富田林高校に中学校を併設し、併設型中高一貫校として運営する）とする。

② コミュニティ・スクール

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第47条の5に規定する「学校運営協議会」を中高一貫校に設置する。

(4) 学校規模

中学校 1学年3学級120人

<参考>

高校 1学年6学級240人（富田林中学校からの内部進学が3学級、外部からの入学が3学級）

(5) 通学区域

大阪府内全域

(6) 開校年度

平成29年4月（富田林中学校1年生受け入れ開始）

2. 中高一貫教育の理念

(1) 教育の目標

「南河内の誇りを胸に抱き、世界とつながり、活躍できる人材」の育成

- 地域に根ざしながら、世界的な視野をもち、世界とつながり活躍できる人材
- 未来を切り拓く強い意志、高い知性、豊かな感性をもち、社会で力強くしなやかに生き抜く人材
- 南河内地域に愛着をもち、貢献する姿勢をもつ人材

(2) 育みたい3つの資質とめざす生徒像

6年間の教育活動を通して育みたい資質とめざす生徒像は、次のように考える。

① グローバルな視野とコミュニケーション力

ア. コミュニケーション力

- ・世界とつながり、交流できる語学力
- ・言語を適切に表現し正確に理解する能力
- ・互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力

イ. プレゼンテーション力

- ・自らの考えを正確に他者に伝える表現力
- ・ICT等を効果的に活用する能力

ウ. 異文化理解

- ・多様な文化を理解する力
- ・違いを尊重する寛容な心と態度
- ・異なる文化を持つ人々と共に協調して生きていく態度

- 積極的にコミュニケーションを図り、自らの考えを伝えて世界につながろうとする生徒
- 広い視野をもち、異文化を理解し、これを尊重しようとする心と態度をもった生徒

② 論理的思考力と課題発見・解決能力

ア. 論理的思考力

- ・物事を理性的・合理的に理解し、考える力
- ・知識や情報を効果的に扱う力

イ. 課題発見・解決能力

- ・「なぜ」を感じるための素直な感性と視点
- ・観察で得られたことや収集した情報から解決に導くことができる力

- 豊かな感性により課題を発見し、幅広い知識・技能を活用して柔軟な発想や論理的な思考により課題を解決できる生徒

③ 社会貢献意識と地域愛

ア. 地域を理解し、地域を愛し、地域に貢献する志（こころざし）

- ・南河内・大阪・日本の自然・文化・産業・歴史等への理解
- ・地域の人々とつながり、活動することから育まれる「地域を大切にしたい」と思う心
- ・地域のために貢献しようと思う公共心やボランティア精神

- 家族や自分の育った地域への感謝の心をもち、地域に貢献しようとする生徒
- 多くの関わりの中で、他者と協調しながら、よりよい社会を形成しようとする生徒

3. コミュニティ・スクールの概要

(1) 設置の目的

地域から期待されている学校であることを踏まえ、保護者・地域住民の学校運営への参画を進めることにより、そのニーズを学校運営に反映させるとともに、学校・家庭・地域社会が一体となってより良い教育の実現に取り組む。

(2) 設置の根拠

コミュニティ・スクールとして「学校運営協議会」を設置する。

(「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第47条の5「教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その所管に属する学校のうちその指定する学校の運営に関して協議する機関として、当該指定学校ごとに、学校運営協議会を置くことができる。」)

(3) 学校運営協議会の構成（予定）

1) 協議会委員の人選

学識経験を有する者、保護者・同窓会等、地域の住民、校長及び教職員、その他の関係者の5つの選出グループのそれぞれから、最低1名を選出する。

2) 委員会

教育活動について、育みたい3つの資質に照らして取組み内容・成果を検証するため、協議会内に次の3つの委員会を設置する。

- ① グローバル委員会
- ② 探究委員会
- ③ 地域愛委員会

(4) 学校運営協議会の取り扱う事項

<承認する事項>

- ① 学校経営計画に関する事項

<意見を述べることができる事項>

- ① 学校運営に関する事項
- ② 学校評価に関する事項
- ③ 教員の授業その他の教育活動に係る保護者からの意見の調査審議に関する事項
- ④ 学校の教職員の採用その他任用に関する事項
- ⑤ その他、校長が必要と認める事項

4. 中高一貫校の教育課程の概要

(1) 教育課程編成の基本方針

2. (2) の「育みたい3つの資質とめざす生徒像」に適った人材を育成することを基本方針とし、6年間の教育課程を編成する。

高校においては、富田林中学校から富田林高校へ入学した生徒（内進生）と他の中学から入学した生徒（外進生）が幅広い人間関係の中で、共に学び、互いに切磋琢磨できるよう学級・講座編成や学校行事等を工夫する。

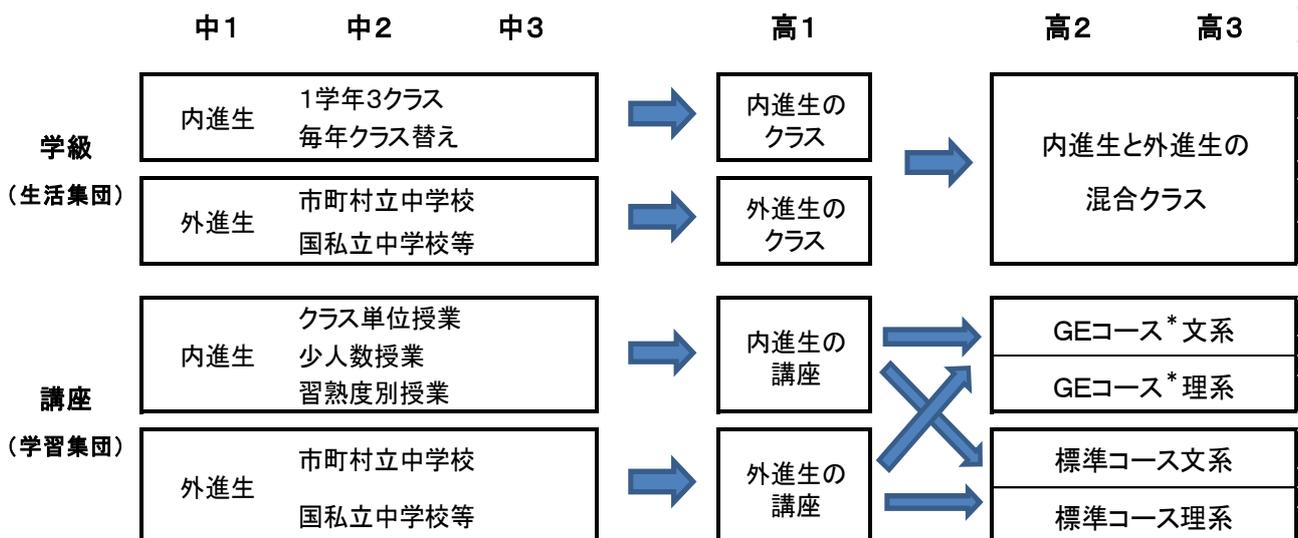
(2) 中高一貫による6年間の教育の流れ

中学校、高校の6年間を基礎期、充実期、発展期の3期に区分し、それぞれの発達段階に応じた教育課程及び教育内容を計画する。

学校	学年	期間	内 容
富田林 中学校	1	基礎期	6年間の基礎を固め、学習習慣・生活習慣の確立
	2		学ぶことの意義・方法の理解・修得
	3	充実期	深く学ぶ授業を中心に、高い学力、広い視野、強い意志を養成
富田林 高校	1	発展期	内進生と外進生の切磋琢磨の機会を設定
	2		内進生と外進生を混合した生活・学習集団の中で、進路を見据えて自らを鍛え、高い志を実現
	3		

(3) 中学校・高校の学級・講座の編成（予定）

高校1年生では内進生と外進生を別学級とする。高校2年生より、富田林中学校から富田林高校へ入学した生徒（内進生）と他の中学から入学した生徒（外進生）を混合した学級（生活集団）、講座（学習集団）を編成し、生徒の進路希望や習熟度に応じて、GEコース*の文理選択と標準コースの文理選択に分ける。



※GEコース*とは、Global Explorer（世界的視野をもった探究者）専門コースのこと。教科・科目により、高い進路希望・習熟度に応じた授業を実施する。また、土曜も活用して、大学教授や起業家等を招いた講演会やワークショップ等を実施し、国際社会のリーダーとなる資質を育む。

(4) 校時表

45分×週35時限の授業により、1日7限授業を実施。

朝活動	8:30～ 8:45	15分
1限	8:45～ 9:30	45分
2限	9:40～10:25	45分
3限	10:35～11:20	45分
4限	11:30～12:15	45分
昼食	12:15～12:35	20分
昼休憩	12:35～13:00	25分
5限	13:00～13:45	45分
6限	13:55～14:40	45分
7限	14:50～15:35	45分
清掃	15:35～15:50	15分
終礼	15:50～16:00	10分

(5) 中学校の教育課程（予定）

1) 各教科等の週当たりの授業時数表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1年	国語 5		社会 3.5		数学 5		理科 4		音楽 1.5	美術 1.5	保健体育 3		技術・家庭 2		外国語(英語) 5					道徳 1	総合 1.5	特活 1	補充 1												
2年	国語 5		社会 3.5		数学 4.5		理科 4.5		音楽 1	美術 1	保健体育 3		技術・家庭 2		外国語(英語) 5					道徳 1	総合 2	特活 1	補充 1.5												
3年	国語 4.5		社会 4.5		数学 5		理科 4.5		音楽 1	美術 1	保健体育 3		技家 1		外国語(英語) 5					道徳 1	総合 2	特活 1	補充 1.5												

※ 補充の時間において、1年生は保健体育、技術・家庭を、2・3年生は音楽、美術、保健体育、技術・家庭を計画的に実施し、年間授業時数を確保する。また、祝日や行事等で欠けた授業を実施する。

※ 道徳、特活は50分授業で実施する。総合は取組み内容により、まとめて実施することもある。

2) 各教科等の年間授業時数

区分	第1学年		第2学年		第3学年		
	年間時数	標準時数	年間時数	標準時数	年間時数	標準時数	
各教科	国語	156	140	156	140	140	105
	社会	110	105	110	105	140	140
	数学	156	140	140	105	156	140
	理科	124	105	140	140	140	140
	音楽	45	45	35	35	35	35
	美術	45	45	35	35	35	35
	保健体育	105	105	105	105	105	105
	技術・家庭	70	70	70	70	35	35
	外国語(英語)	156	140	156	140	156	140
道徳	35	35	35	35	35	35	
総合的な学習の時間	50	50	70	70	70	70	
特別活動	35	35	35	35	35	35	
総授業時数	1087	1015	1087	1015	1082	1015	

※ 年間時数とは、富田林中学校が行う各学年各教科等の年間総授業時数を1単位時間50分に換算したもの。

※ 標準時数とは、文部科学省が定める中学校各学年における各教科等の総授業時数(1単位時間50分)。

5. 特色ある教育活動

(1) グローバルな視野とコミュニケーション力の育成

自分の考えを的確に表現する力、異なる言語や文化、価値観を乗り越えて関係を構築する力、世界的な共通言語である英語を駆使する力等を育てグローバルな視野とコミュニケーション力を育成する。

そのために、国語及び英語の授業を充実して言語能力を育成するとともに、英語スピーチコンテストや各教科、総合的な学習の時間における探究活動の際に討論やプレゼンテーションを経験する機会を積極的に取り入れる。また、社会や総合的な学習の時間等における様々な国の歴史・文化等の探究的な学習を通じて、多文化共生の大切さを学ぶ活動を実施する。

1) 「読む・聞く・書く・話す」の4技能を統合した英語教育

教科等	取組み例
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○英語の「音」と「綴り」の関係を学ぶフォニックスを学習することにより、英語を正しく発音するための基礎を身に付ける指導を行う。〈中学〉 ○英語授業をほぼ毎日実施し、朝のショートホームルーム等を利用して、英語の歌やスピーチのリスニング及び洋書を活用した多読等を行い、日常的に英語に触れる環境を作る。〈中高〉 ○授業の中で、具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができる機会を多く設ける。〈中学〉 ○中学1, 2年生でイングリッシュキャンプを実施し、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育む。〈中学〉 ○中学校は3年生、高校は2年生の海外研修旅行を核にして、海外の中学生・高校生との交流活動や英語によるプレゼンテーションの指導を行う。〈中高〉 ○スピーチコンテストにより、暗唱や小演劇、自分の住む地域の紹介、身近な社会問題等についての意見表明を英語で行う指導を実施する。〈中高〉 ○身に付けた英語力を把握するため、英語力を測定する検査（GTEC等）を実施する。〈中高〉 ○高度な英語力の養成に向け、英語4技能を測る試験（TOEFLiBT等）に対応できる力を育む指導を行う。〈高校〉

2) 各教科・総合的な学習の時間における言語活動・プレゼンテーション

教科等	取組み例
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で、定期的にロジカルコミュニケーショントレーニングを実施する。〈中学〉 ○テーマに基づいた1分間スピーチや問題解決をめざしたグループ討論を行う。〈中高〉 ○「私の好きな本」の魅力について各自プレゼンテーションを行い、相互に批評しあう知的書評合戦（ビブリオバトル）を実施する。〈高校〉
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数グループでの「仮説⇒実験⇒考察⇒検証」の工程を踏まえた探究活動の成果をプレゼンテーションする機会を多く設定する。〈中高〉 ○探究活動の際、観察・実験の時間を十分に設け、結果を分析し解釈して論理的に考えたり、説明したりする活動を多く取り入れる。〈中高〉

社会	<ul style="list-style-type: none"> ○地理・歴史・公民について調査・実習（フィールドワーク等）を行い、その内容を基にしてグループディスカッションやプレゼンテーションを実施する。＜中高＞ ○地域や日本の歴史・文化を理解し、それについて語る力を育成する。＜中高＞ ○法教育を行う際、模擬裁判や模擬国際連合を行い、それを基にしてディスカッションやプレゼンテーションを実施する。＜高校＞
総合的な学習	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな自然や歴史・文化等に恵まれた南河内地域や大阪、京都、奈良等をフィールドに探究した活動の成果を、校内のみならず、地域へ発信する取組みを実施する。＜中高＞

3) 社会・総合的な学習の時間での他の国や地域の学習

教科等	取組み例
社会・総合的な学習	<ul style="list-style-type: none"> ○外国公館の見学・調査や外国についての調べ学習、プレゼンテーションを行うなどして、様々な国や地域の歴史、文化、社会等について学んだり、様々な国をルーツにもつ方々や留学生との交流等を通じて、多文化共生の大切さを学ぶ取組みを実施する。＜中高＞

(2) 論理的思考力と課題発見・解決能力の育成

生徒が知る楽しさ、わかる喜びを実感しながら、粘り強く考え抜く姿勢と、課題解決や観察・実験の結果を分析する際に学んだ知識を活用して論理的に思考する力を育成する。

そのために、教科等での探究活動の際に、観察及び実験の時間や課題解決のために探究する時間を十分に設けるとともに、結果を分析し解釈する活動や、知識を活用して論理的に考えたり説明したりする活動を取り入れる。その際、学びの質や深まりを重視し、ペアワーク、グループワーク、ディベート、ディスカッション、リフレクション等を取り入れ、生徒が課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習「アクティブ・ラーニング」を多く実施する。

1) 科学的思考力を育成する理数教育

教科等	取組み例
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に思考の過程や判断の根拠を言葉、数、式、図、表等を用いて、的確に表現させる場面を、授業の中で多く設定する。＜中学＞ ○基礎基本の確実な定着と事象を数学的に考察し表現する能力の育成に重点を置き、学習指導要領で示されている上の学年の指導内容の一部を下の学年に移行して、計画的・体系的に指導する。＜中高＞
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本の確実な定着と科学的な感性と思考の育成に重点を置く。また、体系的に発展的な指導を行い、単元によっては高校の学習内容の指導も行う。＜中学＞ ○実習や実験を多く取り入れるなど、少人数グループでの「仮説⇒実験⇒考察⇒検証」の工程を踏まえた授業を実施し、科学的な手続きに基づいた論理的な思考力を育む。＜中高＞ ○野外での実習や科学系大学・博物館等、先進的な科学研究の現場の見学を実施し、本物に触れる機会を多く設け、知的好奇心を喚起して学習意欲を高める。＜中高＞ ○「学生科学賞」「科学の甲子園」等の外部コンテストに積極的に参加させる。＜中高＞

2) 正確な読解力、論理的な文章表現力を育成

教科等	取組み例
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○論理的な文章読解を身に付けるために、筋道を立てて理解したり、説明したりするなどのトレーニング教材を活用した指導を行う。＜中高＞ ○評論文の要約、意見文の作成等の添削や個別指導を行う。＜中高＞ ○多くの現代文・古典を読み、語彙力、要約力を身に付ける指導を行う。＜中高＞ ○大学主催の小論文コンテストに応募したり、グループで一冊の本を読み語り合った内容を画用紙等一枚にまとめて発表する取組みを実施する。＜中高＞
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○節目となる単元で、例えば「江戸時代との比較を通して明治時代の特色を考える」「日本で生じた史実について、その原因を国際情勢や世界の地理的条件等を踏まえて考える」などのテーマ学習を行い、日本から世界までを地理的・歴史的に関連付けながら理解する力と、私たちを取り巻く様々な課題への見方・考え方を育む。＜中高＞

3) プレゼンテーションや論文作成に向けた探究活動

教科等	取組み例
各教科 ・ 総合的な学習	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな自然や歴史・文化等に恵まれた南河内地域や大阪、京都、奈良等をフィールドとする探究活動を行う際に「リサーチ→インタビュー→ライティング（レポート）→プレゼンテーション」という工程を通して、論理的思考力と課題発見・解決能力を育む。＜中学＞ ○中学校は卒業前に高校は1・2年生において、少人数ゼミナール形式で、自分たちで興味のあるテーマを設定して長期に渡る探究活動を行い、論文を作成し発表する。その際、課題設定能力や必要なデータを選択し収集する能力、そのデータを検証する思考力、他者の発表を聞く姿勢等を育む。＜中高＞

(3) 社会貢献意識と地域愛の育成

家族や自分の育った地域への感謝の心と地域愛を育成するとともに、将来、地域に根ざしながら、グローバルな視野をもち、社会のリーダーとして活躍できるよう、社会の形成に主体的に参画しようとする意欲や態度を育成する。

そのために、道德教育を充実し、各教科、総合的な学習の時間等において、南河内地域（大阪、日本）をフィールドに探究した内容を自分の言葉で語る活動（プレゼンテーション等）や、地域の方々と協働した活動、地域に貢献する活動を多く取り入れる。

1) 日本の地理・歴史・文化の理解と伝承できる力を育成する教育

教科等	取組み例
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの現代文や古典を読み、その内容や表現の特色を理解して読み味わい、ものの見方や考え方及び現代まで脈々と流れる日本文化に対する造詣を深める指導を行う。＜中高＞

社会	○総合学習と関連付け、地理・歴史・公民について調査・実習（フィールドワーク等）及びグループディスカッションやプレゼンテーションを実施する。＜中高＞ ○節目となる単元で、例えば「江戸時代との比較を通して明治時代の特色を考える」「日本で生じた史実について、地理的条件を踏まえて考える」「興味のある歴史的人物を徹底的に調べる」などのテーマ学習を行い、日本について語る力を育む。＜中高＞
総合的な学習	○華道、茶道、書道、和楽器、芸能等の日本の伝統文化を体験し、現代まで脈々と受け継がれている日本文化に対する造詣を深め、その内容や良さを語る力を育む。＜中学＞

2) 各教科・総合的な学習の時間等での社会貢献意識や地域愛の育成

教科等	取組み例
国語	○富田林出身の歌人石上露子と寺内町について、調べ学習やプレゼンテーションを実施する。＜中学＞
社会	○中学3年生において、公民的分野を学習する際に、高校の現代社会と関連する内容について深く学習し、現代社会の仕組みや諸課題等を考える指導を行う。＜中学＞ ○選挙権年齢「18歳以上」への引き下げに対応し、討論会や模擬投票等を通じて、将来の有権者として社会に積極的に関わっていこうとする意欲や態度を育む。＜高校＞
社会 ・ 総合的な学習	○寺内町や南河内、大阪等の地域フィールドワークを実施し、地理、地場産業、歴史等の調べ学習及びプレゼンテーションを行う。中学1年生で南河内、2年生で大阪・京都・奈良等と発達段階に応じて視野を広げ、3年生では地元の工業・農業・商業・環境・福祉等の専門家に地域や日本の強みや課題を学び、研究し、地域振興策を考える取組みを実施する。＜中学＞ ○高校1年生で議会・裁判所・官公庁・外国公館等を見学・研究・発表し、社会の仕組みを学ぶとともに現代社会の諸課題を考える指導を行う。＜高校＞
理科	○石川水系のフィールドワーク（環境調査）を行うなどし、地元の自然や生物の学習を行い、その成果を基にして、地域の自然再生の意識を育む。＜中高＞
英語	○各教科・総合的な学習の時間等で課題研究を行った南河内（大阪・日本）について、海外修学旅行において英語で紹介する取組みを実施する。＜中高＞ ○英語スピーチコンテストにおいて、自分の住む地域の紹介や身近な社会問題等についての意見表明を行う指導を行う。＜中高＞
総合的な学習 ・ 特別活動	○地域の店や会社等で職業体験活動を実施し、社会人・職業人として自立していくために必要な能力・態度（働くことの尊さ、自己の適性の探索等）を身に付けさせる。＜中学＞ ○地域清掃活動等のボランティア活動や福祉体験活動を行い、社会貢献の意味と自己の適性を考えさせる。＜中高＞ ○当事者からの聞き取りや調べ学習を行うなどの人権教育を充実し、様々な人権課題を自分たちの問題として捉え、協力して解決していこうとする力を育む。＜中高＞ ○地場産業の従事者や起業家等、社会人の方の講演や聞き取りを通じて、苦勞ややりがい等を学ぶとともに、地域に根ざしながら、グローバルな視野をもち、社会のリーダーとして活躍できる資質を育む。＜高校＞

3) 道徳教育の充実

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

教科等	取組み例
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○全教員で教材開発・指導にあたり、生徒の心に響くような魅力ある教材及び指導方法の工夫改善を図る。その際、様々な価値観について多面的・多角的な視点から考えを深め、判断し、表現する力を育むことができるようにする。＜中学＞ ○読み物資料を活用するとともに、指導のねらいに即して多様で効果的な指導方法（問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等）を取り入れる。＜中学＞
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○富田林高校の自主自律を大切にする校風を引き継ぎ、集団の一員としての自覚を高め、協力してよりよい生活を築こうとする実践的な態度を養う。文化祭や体育祭等の学校行事及び総合的な学習の時間等における取組みを通じて、自己の生き方について考えを深め、自己実現できる生徒の育成をめざす。＜中高＞
各教科	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の固有の目標や内容は、生徒の豊かな人格の形成につながる事柄が含まれており、それぞれの教育活動の特質に応じて、道徳的な判断力、心情、実践意欲等の道徳性の育成に努める。＜中高＞

6. 学校生活

学校行事、部活動、生徒会活動については、生徒の心身の発達段階に配慮して計画・立案する。学校行事については、中学生に知的な刺激を与える観点から、可能な限り中高共催とする。

(1) 中学校の主な学校行事（予定）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入学式・前期始業式 中高一貫校用学力調査① 各種検診・身体測定 全国学力学習状況調査（3年）	地域探索フィールドワーク スポートテスト 定期考査①	球技大会 文化祭（プレゼンテーション）	芸術鑑賞 定期考査② 個人懇談①	実力テスト 午前授業（中下旬）	体育祭 定期考査③	前期終業式・後期始業式 中高一貫校用学力調査② イングリッシュキャンプ（2年）	海外研修旅行（3年） イングリッシュキャンプ（1年） 合唱コンクール（2年）	英語スピーチコンテスト 定期考査④ 個人懇談②	府チャレンジテスト（1・2年） 英語力測定検査（2・3年）	総合体験学習（1・2年） 地域貢献活動 定期考査⑤	卒業式・後期終業式 中学修了課題研究発表（3年）

夏休み（7月21日～8月19日頃） 冬休み（12月25日～1月7日） 春休み（3月23日～4月7日）

希望者には各種検定試験（英検、数検、語彙・読解力検定等）の受験機会を設定

(2) 部活動

中学校で実施する部活動については、中学生の身体能力等に十分に配慮し、また、生徒数、施設、活動時間等を考慮して決定する。

(3) 生徒会活動

生徒会は、中学生の指導力の育成を考慮し、中高で別組織とする。但し、生徒会主催の行事については、高校生の指導力育成や中高での一体感の醸成の観点から、実施方法を含めて共催する方向で検討する（文化祭、体育祭等）。

(4) 校歌、校章、校旗

① 校歌

富田林中学校の校歌は、富田林高校のものと同じとする。

② 校章

富田林中学校の校章は、富田林高校のものと同じとする。

③ 校旗

富田林中学校の校旗は、富田林高校のものと同じデザインで、校名を「大阪府立富田林中学校」としたものを作成する。

(5) 制服等

① 制服

富田林中学校の生徒としての連帯感をもち、公的な式典にも適するように、中学生は常時学校指定の制服を着用する。

② その他

中学生は、学校指定の通学かばん、サブバッグ、防寒着等を使用するものとする。

(6) 通学

本人及び保護者の住所が大阪府内であり、保護者のもとから通学する。

通学方法は、原則徒歩または公共交通機関の利用とするが、交通の便に配慮して自転車での通学も許可する。但し、中学校の自転車通学者は、一定の距離以上から通学するものに限り、ヘルメットの着用と自転車保険への加入を義務付ける。

(7) 給食

中学生は、全員給食とする。

7. 中学校の入学者の選抜方法

(1) 募集定員

中学校3学級 120人

(2) 実施日程

平成29年1月

(3) 入学検定料

入学しようとする者は、条例で定める入学検定料を納付する。

(4) 入学者選抜ではかる力

- ① 小学校卒業程度の基礎基本の学力、論理的に考える力、表現力
- ② 中高一貫校で6年間学び続けていくことができる意欲・適性

(5) 検査内容

検査の種類	出題内容
適性検査Ⅰ	国語的問題
適性検査Ⅱ	理科・社会融合的問題
適性検査Ⅲ	算数的問題
作文	400字程度

(6) 適性検査の出題方針

- 小学校学習指導要領の内容に即した範囲の総合問題とする。
- 小学校で学習した内容を基にして、富田林中高一貫校で育みたい力につながっていく生徒一人ひとりの「適性」をみるため、次のような力をみる。

- 1) 基礎的・基本的な知識及び技能
- 2) 必要な知識を正しく理解するための読解力
- 3) 他の人の立場に立って考えられるような想像力
- 4) 分かりやすく伝えるための表現力
- 5) 筋道立てて考えるために必要な思考力・判断力

- 基礎的・基本的な知識・技能をみる問題と、身に付けた知識・技能を活用する力や論理的思考力をみる工夫をこらした問題をバランスよく出題する。

(7) 作文の出題方針

中高一貫校で6年間学び続けていくことができる意欲・適性及び自らの考えや意見を論理的かつ適切に表現する力をみる。

(8) 選抜の方法

適性検査Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと作文の総合点が上位の受験者から合格とする。

(9) 合格者の男女比

男女別にそれぞれ募集定員の45%に相当する受験者(54人)を合格とし、残りの10%(12人)は男女比を問わない。

(10) 繰上合格

入学辞退者が生じた場合、繰上順位に従い、順次入学の意思を確認する。繰上順位の決め方は「(8) 選抜の方法」による。

8. これまでの経過と今後の予定

〔これまでの経過〕

平成26年度

- 6月 府教育委員会 南河内地域における中高一貫校設置に向けた検討を進めることを報告
- 12月 府教育委員会 南河内地域における中高一貫校を設置することを決定

平成27年度

- 8月 府教育委員会 府立富田林高等学校に併設される中学校の学校概要について決定
- 11月 府教育委員会 府立富田林高等学校に併設される中学校の教育課程や教育内容等の検討状況について報告

〔今後の予定〕

平成27年度

- 3月 府議会 府立中学校の設置に関する府立学校条例の改正

平成28年度

- 5月 入学者選抜方針（選抜日程、検査時間、配点等）の決定
- 6月～ 保護者等対象学校説明会
- 7～8月 入学者選抜実施要項公表
- 1月 入学者選抜

平成29年度

- 4月 開校